



第12回  
ひろしま「山の日」県民の集いの記録

---

2013年6月1日(土)・2日(日)開催

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会/中国新聞社/中国放送

## はじめに

広島は里山の国と言ってもいいでしょう。広島の里山は、里、川、まち、そして海ともつながり、多くの恵みをもたらし、命をはぐくんでいます。人とひと、人と里山、里とまち、企業と地域・・・安芸高田市をメイン会場に広島県内 12 の会場を結んで、12 回目のひろしま「山の日」県民の集いを開催いたしました。

6 月 2 日は、終日雨模様となりましたが、雨天プログラムに切り替え行事を行いました。各会場とも親子連れなど、熱心な人たちの参加が目立ちました。

### ●第 12 回ひろしま「山の日」県民の集い「山の日」宣言

広島県の面積のおよそ 7 割は山です。全国に誇る里山を有しています。山から湧き出る水は命の源であり、その水が里の稲や野菜を育てています。

山を被う緑の木や草は、新鮮な空気をつくりだしています。

広島の豊かな山で生まれた水は豊かな川となり瀬戸内海や日本海へ注ぎ、魚や貝を育てています。

私たちは、6 月の第一日曜日を「山の日」とし

ひろしま「山の日」県民の集いを、県内各地で開催し

山の大切さを訴えています。

ひろしまの里山から、山の大切さを理解し行動する人の輪を拡げ、山がよくなる運動にしていくことを宣言します。

2013 年 6 月 2 日

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会

実行委員長 伊藤利彦

## 目次

1	事業のアウトライン	2
2	記念行事の記録	3
3	各会場の記録	
	① 安芸高田市会場: 吉田サッカー公園	4
	② 東広島市会場: 憩いの森公園	11
	③ 廿日市市会場: もみのき森林公園	16
	④ 広島市会場: 広島市森林公園	18
	⑤ 広島市会場: 広島県緑化センター	20
	⑥ 三原市会場: 中央森林公園	23
	⑦ 庄原市会場: 板橋さとやま学びの森	27
	⑧ 福山市会場: ふくやまふれ愛ランド	29
	⑨ 三次市会場: 酒屋地区憩いの森、ほしはら山のがっこう	30
	⑩ 呉市会場: グリーンヒル郷原	32
	⑪ 北広島町八幡高原会場: 八幡高原	34
	⑫ 尾道市会場: 尾道ふれあいの里	37
4	トピックス	39
5	実行委員	40

# 事業のアウトライン

1 目的	森林ボランティアや民間が中心となり展開してきた、ひろしま「山の日」県民の集いも 12 回目となる。10 年後、広島県内 23 市町で展開できるように広島県など行政も加わった県民参加の森づくり運動として展開する。多くの県民が、身近な山へ入るきっかけをつくることを狙いにする。
2 日時	2013 年 6 月 1 日(土) 山の日夕べ 映画「森聞き」上映 2013 年 6 月 2 日(日) 集いの行事(広島県内 10 市町 11 会場) ※北広島市八幡会場は 6/1・2、三次市会場は、6/9 に実施)
3 場所	広島県内 11 市町 12 会場 安芸高田市会場(吉田サッカー公園)、東広島市会場(憩いの森公園) 廿日市市会場(もみのき森林公園)、広島市会場(広島市森林公園、広島県緑化センター) 三原市会場(中央森林公園)、庄原市会場(板橋さとやま学びの森) 福山市会場(ふくやまふれ愛ランド)、三次市会場(酒屋地区憩いの森・ほしはら山のがっこう) 呉市会場(グリーンヒル郷原)、尾道市会場(尾道ふれあいの里)、 北広島町八幡高原会場(八幡高原)
4 総参加者	約 3, 100人(山の手入れ等参加者約900人)
5 主催	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
6 特別協力	ひろしまの森林づくりフォーラム
7 後援	林野庁近畿中国森林整備局、広島県、広島県教育委員会、広島市、呉市、福山市、三原市、尾道市、三次市、庄原市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、北広島町、(公社)国土緑化推進機構、(公社)広島県みどり推進機構、(一社)広島県森林協会、広島県森林組合連合会、ひろしま緑づくりインフォメーションセンター、(一社)広島県山岳連盟、(公社)日本山岳会広島支部、「山の日」制定協議会、NHK広島放送局、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島
8 協賛	西条・山と水の環境機構、(株)ウッドワン、NEC フィールディング(株)、山陽乳業(株)、JA グループ広島、(株)タカキベーカーリー、大和重工(株)、中国木材(株)、(株)中電工、マツダ(株)、広島県協同組合連絡協議会、三原ロータリークラブ有志、広島信用金庫、広島県信用組合、(株)エディオン、(社)広島県造園建設業協会、尾道商工会議所、神沢精工(株)、クニヒロ(株)、光和物産(株)、山陽建設(株)、山陽工業(株)、しまなみ信用金庫、田中電機工業(株)、西日本旅客鉄道(株)広島支社三原地域鉄道部、(株)パブリックス、東広島商工会議所、日の丸産業(株)、ひろしま NPO センター、広島商工会議所、広島ガス(株)、広島市漁業協同組合、(株)広島バスセンター、福山商工会議所、(株)不二ビルサービス福山支店、みずえ緑地(株)、(株)ユアーズ、(株)有斐園、森信建設(株)、ゆあーず「食」未来研究所
9 助成	ひろしまの森づくり県民税 助成事業 「緑の募金」助成事業

山の日の夕べ 映画「森聞き」上映

■参加人数：約150人

＜プログラムの状況＞

高校生たちも鑑賞。最後は、感動の拍手がおこりました。

6月1日(土)山の日の夕べとして、映画「森聞き」の上映会が安芸高田市(会場：クリスタルアージュ)で開かれました。広報活動を始めたところ、広島県内各地から、そして地元の人たちや県立吉田高校の高校生たちからの申し込みが届きました。



▲名人との出会いを語る「森聞き」の一コマ

あわせて150人が鑑賞、内高校生は16人。会場では、お母さんと一緒の小学生の姿も見かけました。2時間5分の「森聞き」が終わった時、会場から自然に拍手がおこりました。森と共に生きてきた人の言葉を聞きながら、それぞれにある自分の生きていく事と語り合うことができたのだと思います。



▲市内外の150人が鑑賞

映画 「森聞き」 作品紹介

■生きるというのは、好き嫌いじゃない

100人の高校生が、100人の森の名人を訪ねる試みがつづけられている。この映画では、4人の高校生が、それぞれ日本各地の山村に暮らす老人たちを訪ねた。「森の名人」と呼ばれる人たちの人生と技を聞き書きするためだ。綱一本で杉の大木に上り、良質の種を採集する76歳のおじいちゃん。小学校3年生のころから焼き畑を続けてきた85歳のおばあちゃん……。そんな老人たちの言葉は、意外なほどまっすぐ高校生たちの心の奥底に届く。

「焼き畑のどこが好きですか？」高校生の女の子の何げない質問に、おばあちゃんが語気を荒げる。「好きっっちゃうことはないけん。ばあちゃんたちの一生の仕事だから。山があるから、そして種を切らさんためにしていくとよ。好きでやっとならなくていいですよ。生きていくために、ずっと」そして、戸惑う女の子に優しくさす。「みんなそうだからね。植物、動物は全部、生きていて、子孫残すために、ちゃんと世渡りを何十年でも、何百年でも、何千年でも、自然とね」

年老いた名人たちの言葉に、進学、就職、今まさに人生の岐路に立つ高校生たちの魂は、ゆっくりと、しかし確実に揺さぶられていく。「人生の質量」に圧倒されていく。そして、自分が手渡した言葉を、若者がしっかりと受け取るのを見届けたとき、老人は満足そうにうなずく。それは、自分たちの積み上げてきた人生が「たしかなもの」であったことを、あらためて確認できた喜び。おれは84だ。だども、頭の中はきれいなもんだ。おはんもな、目標持ってよ、元気にやればいいせ。何か行き詰ったときがあったら、もう一回来ればいいせ」

これは、断絶しつつある世代を再びつなぐ、信頼回復の記録です。



監督 柴田昌平

製作・配給 プロダクション・エイシア

協力 第7回森の「聞き書き甲子園」実行委員会

助成 文化芸術振興費補助金

# 安芸高田市会場 吉田サッカー公園

全体

■参加人数：450人

＜プログラムの状況＞

若い世代の参加が印象に残りました。

6月の第一日曜日は、ひろしま「山の日」です。2002年から森林ボランティアや山岳関係者が中心となって始めたこの運動も12回目となります。会場を一年に一カ所ずつ増やし、賛同した団体等の持ち込み企画で運営する方式です。

今年のメイン会場となった安芸高田市会場（吉田サッカー公園）の企画テーマは「里山の若い芽を育む」。湧永実行委員長の元、里山の手入れ、里山・歴史ウォーク、親子で小鳥の巣箱かけ、吉田高校神楽部発表会、市内で活動するサッカーやハンドボールの監督選手等一緒になっての記念植樹、里山の恵みバザーなどのプログラムがそれぞれの団体により主体的に運営されました。

雨模様でしたが、子供たちや家族連れなど、里山を楽しみ学ぶ若い世代の姿が印象に残った集いとなりました。



▲元気な子どもたちの姿が印象に残りました▶



▲雨の日は雨の日のように、オープニングセレモニー



▲一緒に、記念植樹



開会式（オープニングセレモニー）

■参加人数：400人

＜プログラムの状況＞

里山に囲まれた、吉田サッカー公園が会場です。昨夜からの雨が、周辺の山の若葉を一層鮮やかにしていました。開会式には、雨にもかかわらず安芸高田市内や周辺の町から約400人が参加。湧永寛仁安芸高田市会場実行委員長の開会宣言に始まり、伊藤利彦実行委員長が「山の日」の輪を広島県内に広げていきたいと挨拶。中下善昭広島県副知事の祝辞、浜田一義安芸高田市市長の歓迎の挨拶が続きます。

平成25年度広島県緑化功労者表彰式では、2つの団体が表彰されました。

①土師ダム桜守りプロジェクト（安芸高田市八千代町）

土師ダム湖周辺には約6,000本の桜が植えられており広島県内有数の桜の名所となっている。しかしながら、近年、多くの桜の老齢化が進行し、テングス病に罹る桜、生育不良の桜も少なからず存在している。このため、地域住民が一体となって、ボランティア活動として平成19年2月25日から「桜守プロジェクト」を推進しており、平成25年3月末で7年目を迎えている。活動内容は、桜の樹間の拡大(間引き伐採)、病虫害被害木の剪定・伐採、施肥・土壌改良等である。

②青河尚和会（三次市青河町）

昭和29年から、「青河尚和会」が中心となって旧酒河村有林を青河地域の山林として管理することとし現在に至っている。緑化活動内容は、青河町民150世帯による植林・下刈り・除伐・枝打ち等を実施しており、森林の保全・地域環境の保全に貢献している。当該団体は、自然環境保全にも意識が高く、太陽光発電・無農薬の米作り等の取り組みを実践しており、水質保全が図られた結果、県内外・近隣地域住民が参加できるホテル祭りの開催にも取り組んでいる。

地域の環境保全や美化活動に積極的に参加している田村涼くんと田村萌さん（二人とも刈田小学校6年生）が元気に、第12回ひろしま「山の日」宣言をし、各プログラムに入りました。



▲開会宣言をする湧永寛仁安芸高田市会場実行委員長



▲伊藤利彦実行委員長の挨拶、特別ゲストのモーリー



▲広島県緑化功労賞表彰式



▲「山の日」宣言をする、刈田みどりの少年団の2人

## 広島県立吉田高校神楽部 神楽上演

■参加人数：400人

### ＜プログラムの状況＞

開会式終了後、開会式アトラクションとして、安芸高田市といえば「神楽」ということで、吉田高校神楽部員による、神楽の上演をしていただきました。

神楽部員20人で舞人4人、楽5人で演目「日本武尊」を勇壮に舞っていただき、あいにくの雨の中ではありましたが、たくさんの方々に鑑賞していただきました。



▲「ヤマトタケル」を熱演。今日が新装した衣装のお披露目の舞台でもあった。

## 里山の手入れ

■参加人数：15人

### ＜プログラムの状況＞

開会式アトラクション終了後、手入れをする予定でしたが、小雨が降っていることもあり、開会式会場の「里山の恵みバザー」のブースで、猟師の炊き込みご飯とうどんの昼食をとりました。

午後から「里山の手入れ」をすることになり、参加者は、徒歩で5分ほどの「三矢の森」生活環境保全林に移動し、点呼後、安芸北森林組合の職員による作業内容の説明を受けたあと、除伐などの作業を開始しました。

あいにくの雨模様ということで、参加者は15人ということでしたが、小学生も2人、保護者とともに参加していただき、皆さん安全にケガもなく終了できました。



▲「三矢の森」で里山の整備。2人の小学生も参加

## 小鳥の巣箱掛け

■参加人数：140人

### <プログラムの状況>

実行委員会で巣箱を用意し、高田郡木材協会の方々から巣箱掛けの要領の説明を受け、小学生の親子で小鳥の巣箱に絵や名前を書いて準備をしました。皆さん一生懸命に巣箱に絵を書いて、立派で可愛い小鳥の家が出来上がりました。巣箱の準備が出来たら、お父さんやお母さんと一緒に「三矢の森」に設置し、野鳥の巣づくりのお手伝いをしました。親子で巣箱掛けをし、また、親子で小鳥が巣を作っているか見に来ていただき里山に親しんでいただけることを願っています。



▲メッセージや名前を書き込んで「三矢の森」に巣箱を掛けました



## 椎茸の植菌体験及びほだ木のプレゼント

■参加人数：200人

### <プログラムの状況>

実行委員会で椎茸のほだ木を用意し、参加者で植菌体験をしたい人は、安芸北森林組合の職員の指導のもとに、ほだ木に穴あけドリルで穴を開けて、子どもさんも楽しみながら1個、1個、ていねいに菌を打ち込みました。

植菌済のほだ木を含め200本のほだ木を、家庭での管理の方法のチラシと一緒に、全て持って帰っていただきました。



▲子どもたちにも大人気。ほだ木を大事に抱えて

## 里山・歴史ウォーク

■参加人数：10人

### ＜プログラムの状況＞

開会式前からの雨で、開催できるかどうかと思っ  
ていましたが、10人の参加申し込みがあり、小雨  
の中ではありませんでしたが、スタートしました。

開会式会場からバスで10分移動し、戦国大名で  
あった毛利元就の居城、日本百名城に選出されてい  
る郡山城跡を、吉田町史跡ガイド協会会員の案内に  
より、毛利元就の歴史について説明を受け、学習し  
ながら散策しました。

散策後、安芸高田市歴史民俗博物館に立ち寄り、  
常設展示室では毛利氏時代の文化財の数々を見学し、  
バスで開会式会場まで帰りました。



▲日本百名城に選出されている郡山城跡を散策

## 記念植樹

■参加人数：50人

### ＜プログラムの状況＞

開会式アトラクション終了後、サンフレッチェ広  
島の森保一監督、湧永レオリック玉村健次監督ほか  
5人の選手と共に参加者50人は、徒歩で5分ほど  
の「吉田サッカー公園の森」へ移動しました。

参加者の中には、刈田みどりの少年団17人を  
含む一般参加の子どもさんもたくさん参加しました。

安芸北森林組合職員による植樹要領を説明後、前  
日に準備した鳥居支柱のそばに穴を掘り、イロハモ  
ミジ5本とオオシマザクラ5本を植え、肥料を混ぜ  
た土で埋め、バケツで水を運び根元に水をやりまし  
た。鳥居支柱には記念になるよう植樹した自分の名  
前も書き込み、木の成長をまた見にきていただくよ  
うにしました。参加者は、森保監督や玉村監督、湧  
永レオリックの選手といつも間近で見ることのでき  
ない選手と一緒に、楽しく記念植樹を終えました。



▲森保監督（サンフレッチェ広島）、玉村監督（湧永レオリック）らと子どもたちが一緒に「吉田サッカー公園の森」へ記念植樹

## 森のネイチャーゲーム

■参加人数：27人

### ＜プログラムの状況＞

雨模様の中、当日受付ということで、参加者が中々集まらなく、開催できるかどうか心配していましたが、27人の参加者があり、広島県シェアリングネイチャー協会の宮本さんの指導のもと、「三矢の森」において、開催することができました。

午前の部は、刈田みどりの少年団や親子の参加で、午後の部は、家族ずれや大人の参加者もあり、皆さん最後までゲームに参加して頂けたので、楽しく過ごすことができました。



▲森のネイチャーゲームを楽しむ子どもたち

## 里山の恵み バザー・展示

■参加人数：約500人

### ＜プログラムの状況＞

「里山の恵み バザー」では、安芸高田市産の三矢御膳（米・あきろまん）を利用したアイデア料理コンテストの和食部門で優秀賞となった、三矢御膳・猪肉を使用した「猟師の炊き込みごはん」と安芸高田市特産の青ネギをふんだんに利用した「うどん」500食を用意し、残りなく全てなくなりました。参加者からは、「猟師の炊き込みごはん」も「うどん」も「美味しい。美味しい」と2食目も食べられる方もあり、大好評でした。

展示ブースでは、鶴学園八千代校舎のご協力により、生徒が松枯れの松や間伐材を利用して作成された、バイクやヘリコプターや木馬などの作品を展示していただき、皆さまは、木製でこんなものができるかかと、感心して見学されていました。



▲里山の味わい。「猟師の炊き込みご飯」と特産の青ネギの入ったうどんが大好評



▲松枯れの松や間伐材を利用してつくった機関車、ヘリコプター、木馬等

## 閉会式

ひろしま「山の日」県民の集い

次回のメイン会場開催地は、安芸太田町です。

■参加人数：約200人

＜プログラムの状況＞

回を重ねるごとに会場が増える方式が、ひろしま「山の日」県民の集いの運営方式である。13回目となる次回のメイン会場は、安芸太田町です。集いの閉会式で、「山の日」フラッグが湧永寛仁安芸高田市会場実行委員長から、安芸太田町小坂眞治町長へ引き継がれました。



▲「山の日」フラッグ、次回メイン会場の安芸太田町の小坂町長へ

■安芸高田市で初めての「山の日集い」に参加して

シモーナ・ゾレット（ベニス大学大学院生、広島大学大学院国際協力研究科留学中）



皆さま、はじめまして。広島大学に短期留学中のイタリア人大学院生です。6月1日(土)と2日(日)に安芸高田市で行われた第12回ひろしま「山の日」県民の集いへ、中越信和教授に招かれて参加しました。

一日目、教授と私はクリスタルアージュに行き映画「森聞き」を鑑賞。十代後半の4人の男女学生が伝統的山林活動家の名人の語らいをインタビュー録音し、文章化するドキュメンタリーでした。日本語映画でしたが、言葉は解らなくても山の自然と人間の結びつきは理解できました。夜は神楽門前湯治村に宿泊。元来は神様に奉納する神楽を生れて初めて観ました。

翌朝、主会場の吉田サッカー公園着。9時30分の開会式の壇上には、実行委員長、実行委員、浜田市長、来賓の方々がありました。挨拶後、地元の高校生による神楽の上演。日本の伝統芸能の新知見を与えてくれた神楽は、その美しい装束や複雑な動きと足運びで強く印象に残りました。その後、様々な催しははじまりました。雨天でも多数の人が参加し、家族ずれや子どもたちもいて、祭りの様相でした。

私は記念植樹に参加、公園内にイロハモミジとオオシマザクラを林業関係者の指導で無事植栽。植えられた木々を見て、私と同じように、皆さんも満足そうでした。昼食後は里山整備に参加。参加者は下刈りと枝打ちを教わり、それらがより大きな木の生長を促進することを理解。1時間余り、その方法で里山整備、放置林の一角が見事に整備完了。

全活動終了で、午後2時半閉会式。私も短い感想を話すことになり、中越教授に逐次通訳をして頂きました。安芸高田市で初めての山の日集いは成功です。そして来年もっと成功することを望んでいます。ありがとうございました。

(原文英語 訳中越信和)



▲中越アドバイザー（広島大学大学院教授）の講評と参加した感想を話すゾレットさん

## 全体

■参加人数：500人

### ＜プログラム状況＞

数日前から天気予報が刻々と変化し続け、前日の会場設営も小雨が降る中、翌日の明け方には雨が上がる予報を信じて準備を続け、当日も「もうすぐ雨は止む」と言いながら開会準備を続けました。結局、雨は止むどころか時に強く、降ったり止んだりを繰り返し降り続け、10分遅れで開会しました。開会式では、来賓のご祝辞をいただき、みどりの少年団の山の日宣言、安全祈願の「どんぐり、ころころ」を元気に行いましたが、結局、山の手入れ活動は中止せざるを得ませんでした。参加予定の2つの企業グループも早朝には不参加を決め、一班減りましたが、午後のプログラムを前倒して実施。その他のプログラムも「森の野鳥観察」を除いて午前のみの実施となりました。

午後からのプログラム参加希望のご家族から実施の問い合わせをいただいたりと天気さえよければと空を見上げた1日でした。それでも傘をさしてお昼に現れたご家族連れには「森の野鳥観察」に参加していただき、なんとか楽しんでいただけたのではないかと思います。元気だったのは子どもたちでみどりの少年団は雨なんかへっちゃらといったふうで丸太切りや木工教室でも歓声があがっていました。雨にも関わらず多くの方々にお越しいただいたので、次回はそれに負けないプログラムを考えようと思います。



▲開会挨拶 島 靖英 実行委員長代理



▲＜祝辞＞森光俊樹 広島県東広島農林事業所長

山本辰也 東広島市産業部次長兼農林水産課長



▲東広島みどりの少年団男女キャプテンによる山の日宣言



▲安全祈願セレモニー「どんぐり！ころころ！」

記録者：船本昌義（東広島市会場 事務局長）

## 山のグラウンドワーク

■参加人数：278人

### <プログラム状況>

「西条・龍王の名水」見学（雨天により作業中止）

今年の「山の日」は雨がふっていたので、山での整備作業を取りやめて、途中霧がかすむ西条盆地を眺めたり、整備予定だった山を通ったりしながら「西条・龍王の名水」まで登りました。「西条・龍王の名水」では、龍王山に降った雨は、北に流れると酒米を作る水田の水に、そして南へ流れ17年から50年後に酒蔵通りに湧き出す伏流水は酒の仕込み水になっており、西条の酒造りに欠かせない水です。それだけでなく、森林を整備することは山の保水能力を高め、土石流の起きにくい山にしてくれるので、私たちの生活を守ることに繋がります。こういった話のほか、水の硬度と味について説明させて頂きました。山のグラウンドワークの参加者の皆さんは、山の整備はできませんでしたが、その森林整備が私たちの生活や西条の酒にどのように関わっているのかを考える学びのグラウンドワークになったと思います。

記録者：小倉 亜紗美（西条・山と水の環境機構）

### ●バイオマス講習

山から戻ってきた後、龍王山と水の関係についておさらいして、佐藤高晴広島大学大学院総合科学研究科准教授（実行委員会運営委員長）の森とバイオマスについてのお

話をみんなで聞いて、山のグラウンドワークは終了しました。龍王名水と酒蔵通りの井戸水とのきき水も予定していましたが、雨で伏流水への雨水の混入が懸念されたので、これも中止



せざるを得ませんでした。

授業で参加した大学生は、ペレットストーブや西条農業高校の展示も見学して感想文入りの出席カードを書いていた。

記録者：船本昌義（東広島市会場 事務局長）



▲雨の中、龍王山を歩く



▲山づくり・水づくり活動のお話



▲西条・龍王の名水の解説

## 初心者のための登山教室

■参加人数：27人

### <プログラム状況>

今年度は雨の中の登山教室となったが、みどりの少年団17名（男子8、女子9）と付添いの方5名、一般参加者5名 合計27名の参加を得て日本山岳会4名のスタッフで実施した。

昨夜からの雨で足元も悪く、頂上はあきらめて、遊歩道の散策に切り替えた。歩行中、雨の中での注意点等を実地で体験していただき、途中の東屋では「山登りの基本」のワンポイントレッスンを実施した。雨にもかかわらず、少年団および一般の方達の元気に救われた。怪我もなく12時前に多目的広場に下山した。



▲登山の様子



▲山頂での集合写真

記録者：森 茂樹（日本山岳会広島支部）

## 野鳥観察「森の野鳥を探そう！」

■参加人数：58人

### <プログラム状況>

小雨の中、「森の野鳥を探そう！」の野鳥観察会が午前と午後の2回行われた。会場での受け付けテントには巣箱とそれを利用したシジュウカラの写真や、カービングが飾り付けられ、野鳥の鳴き声も流されて、子どもや一般来場者から注目された。

午前の観察会は、「みどりの少年団」12名と付き添い5名を、小グループに分け、それぞれに会員が付き、指導に当たった。1キロ余の山道をホオジロなどの野鳥を観察、道すがら季節の草花やキイチゴの実を口にしたり、シュレーゲルアオガエルを見つけたりと動植物への関心も深めた。

午後是一般の参加者があり、ホオジロやツバメを観察、コシアカツバメも観察出来たので、その違いや見分け方を学んだり、新緑に白さが際立つヤマボウシの花の美しさに感動したり、クロモジの木の良い香りを楽しんだり、キイチゴの実を賞味したりして楽しんだ



▲受付に飾られたカービング



▲午後の部：生物探索

記録者：新名 俊夫（東広島の野鳥と自然に親しむ会）

## 森のネイチャーゲーム

■参加人数：27人、午後は中止

### <プログラム状況>

「みんなで雨を楽しもう」と宣言して出発です。はじめに「ネイチャーLOOP」で自然のつながりを考えました。東広島会場の特徴である山の手入れと酒造りにも思いを馳せます。次いで、口をきかずジェスチャーだけで林の中を歩き、「何か声がする！」と立ち止まると、そこから「自然のつぶやき」です。「もうやめて」という声の主を探しました。びしょぬれの毛虫や、ゴミを捨てられた草むら、イノシシに掘り返された地面などの声を拾いました。

最後に、他の声も聞こえるねと「木のセリフ」を行い、参加者各人が思い思いに林の中にセリフを書き込みました。生まれたてのクモの赤ん坊の「僕たち、かわいいでしょ」が印象的でした。



▲ネイチャーゲームを楽しむみどりの少年団たち

記録者：浅野敏久(広島県シェアリングネイチャー協会)

## 森の木工教室&丸太切り体験

■参加人数：58人

### <プログラム状況>

今回は、山のグラウンドワークが雨のため中止となり残念でした。賀茂木材連絡協議会の方々の協力を得て、「山の木工教室&丸太切り体験」を行いました。生憎の空模様でしたが、約60名弱の方が来られ普段使う事が少ない鋸等を悪戦苦闘しながらも、懸命に頑張る丸太を切ったり、巣箱、ネームプレート等自分の好きな木工にチャレンジして、完成させたときの笑顔がとても印象的でした。これからも、いろんな世代の人々に山に関心をもってもらえるよう頑張りたいと思います。



▲木工教室で巣箱をつくる



▲丸太切り体験

記録者：松浦尚樹(賀茂地方森林組合)

## ハーブで遊ぼう！

■参加人数：延べ96人

### <プログラム状況>

今年は優しい雨が降ったり止んだりのお天気。我々のブースはテントの下、子供たちの明るい声が行き交っていました。

石けんづくりでは、ラベンダーとミントの2つの香りを用意しました。手の温もりを与えながら透明感がでるまでこねるのですが、みんなよく頑張りました。作業中の個性ある子供たちの会話に担当者はとても癒されたそうです。

野草茶のティスティングで一番人気は、カラスノエンドウです。どこにでも生えていて笛になったりお茶になったり・・・香りよく焙じられたお茶は雨で冷えた体にとっても美味しかったようで、喉によいと言われるマロウティも好評でした。暖かいお茶を出せて良かったです。自然の恵みを感じてもらえたかな？すべてが落ち着いて進行した半日でした。



▲ハーブ石けんづくり体験



▲マロウ(ウスベニアオイ)の花とお茶

記録者：高見 京(憩いの森ハーブ研究会)

## ペレットストーブの実演展示

### <プログラム状況>

今回は、参加し始めて初めての雨天開催でした。グラウンドワークが中止になったのは残念でしたがペレットストーブ屋は、山から下りてきた方や緑の少年団の子供たち、西条農業高校の生徒たちでいっぱいでした。

沢山のお客様とはお話できませんでしたが逆に、濃いお話が出来たのではないかと思います。

各市町村で、薪やペレットストーブに補助金が付き始めています。是非、東広島市でもペレットストーブに補助が出れば購入を検討される方が沢山いらっしゃるのではないかと思います。

お客様とお話しする中で、木質ペレット燃料は、これからの燃料革命には必要だと改めて感じました。



▲ペレットストーブを囲む見学者

記録者：山野井重典(ヤマノイ株式会社)

## 西条農業高校の活動展示

「酒都・西条の水質の研究」ほか研究発表展示



## 全体

■参加人数：約500人

### <プログラム状況>

早朝より降り出した雨の中、「第12回ひろしま「山の日」県民の集い in はつかいち」が参加者500人で開催された。

“森とふれあいーやってみようボランティア活動”の合言葉で展開されたこの日のプログラムは、元気がでる森づくりをしよう！、JRふれあいウォーク、森のネイチャーゲーム、作って飾ろう！草花あ・そ・び、親子でピザを楽しむ会、魚のつかみどり、森のクラフト教室、チョウザメの鑑賞、ドラム缶炭焼き道場、ポニーと遊ぼうと11種のプログラムで盛りだくさんであったがポニーと遊ぼうは、雨のため中止となりました。

10時に開催された、開会式では、櫻井実行委員長の開会挨拶、国土緑化推進機構 秋元則之募金企画部長の挨拶の後、この山の日にご協賛いただいた、キリンビール株式会社の活動“GREEN HEART PROJECT”の植樹活動使用する苗木（イロハモミジ10本、レンゲツツジ150本）を、キリンビールマーケティング（株）広島支社栗森雅哉支社長から目録を受領した。

次にメインイベントの「山の日」宣言は、広島修道大学生のボランティアを代表して武井さん、廣政さんの2人が力強く宣誓した。締めくくりは阿品の森サポータークラブの井上会長が作業場の注意点などを発し、安全祈願の「どんぐり！ころころ！」を三唱して式典を終了した。

記録者：廿日市会場実行委員会



## 元気がでる森づくり

■参加人数：60人

### <プログラム状況>

元気がでる森づくりは、広島修道大学の学生ボランティアが中止となり、一般を合わせて参加者総勢60人が、クワ、スコップ、カマを持ち10班に分かれて植樹活動をした。

参加者は、阿品の森サポータークラブの会員から植樹に関する指導を受け、事前に準備してあった植える場所へと移動した。しかし、雨の中の作業のため、足元は滑りやすく泥が撥ねるのも気にせず？一生懸命にクワで耕した。植える場所には、ススキの根や石などがあり、これを除去して、土地改良剤、有機質の肥料を土とよく混ぜた。

植樹する樹木は、レンゲツツジ（高さ0.5m）は1.5㎡に150本、イロハモミジ（高さ3m）は、10本それぞれ適当な間隔に植え付けた。イロハモミジは、蒸散作用を抑えるべく、適当に枝を剪定し、カケヤで、支柱を打ち込み、麻縄で固定した。また、参加者にはキリンビール（株）から頂いた、タオル、軍手、ビブス、エコバックの4点が記念品として配布された。



開会式会場を取り巻くイベントブースでは、朝早くから準備してきたスタッフが商品や体験行事の材料を並べ、各種の体験行事を実施したが、あいにくの雨で参加者は少なかった。

### 親子でピザと楽しむ会



### チョウザメの鑑賞



▼雨で参加できなかったドングリくん



この日、もみのき森林公園で行なわれた森林の多様性に関する体験活動は、次のとおり。

### ドラム缶炭焼き道場



### 作って飾ろう！草花遊び



### 森のつみ木広場



記録者：廿日市市会場実行委員会

全体

■参加人数：370人

＜プログラム状況＞

当日は、あいにくの雨天で開催を予定しておりました4つのイベントのうち、「グリーンアドベンチャー」と「スタンプリアー」が中止となってしまいました。また、もりメイト倶楽部Hiroshima運営の「森林公園の山の手入れ」は会場を芝生広場休憩所に変更し、内容もロープワークや山に関する勉強会に変更しました。

同じく広島県シェアリングネイチャー協会の協力を得た「森のネイチャーゲーム」も芝生広場休憩所で行い、屋内でも楽しめるゲームに内容を変更しました。

スタッフの尽力により、雨天にもかかわらず参加者の方々に楽しんでいただきました。



▲砂原秀年氏による「山の日」宣言

記録者：隅田 誠（広島市森林公園）

## 森のネイチャーゲーム

■参加人数：親子15人

＜プログラム状況＞

①つながりジャンケン②ポイズンリムーバー③昆虫、動物探しゲームを行いました。

「つながりジャンケン」は、葉→虫→鳥→木など連鎖の流れをジャンケンで体感してもらいました。

「ポイズンリムーバー」は、ハチ、昆虫や蛇の液、毒針を吸いだす道具をゲームにしたもので、鬼ごっこの要素があり楽しめました。またポイズンリムーバーを使って実際に体験してもらいました。

「昆虫、動物探しゲーム」は、昆虫や動物がすんでいる場所から探していくとみつけやすかったようです。

活動の後、おみやげに小枝を使ってどんぐり迷路を作り、持って帰ってもらいました。今回、天候が悪く雨だったため参加者が5組14人と少なかったのが、残念でした。



▲つながりジャンケン（大人も子どもも一所懸命）



▲ポイズンリムーバー（必死で逃げろ！）



▲動物探しゲーム (さあ、どこにいるかなあ?)



▲森どんぐり迷路づくり (今日のおみやげ)

記録者：森垣夫査子(広島県シェアリングネイチャー協会)

## 森林公園内の山の手入れ

■参加人数：23人

＜プログラム状況＞

早朝から小雨が降り続き、天気予報では午前中一杯雨の様子でした。参加予定の子どもたちも楽しみにしているようでしたが、屋外で無理をして風邪などを引いてはいけないので、屋内でできる内容に切り替え、山についての勉強会を行なうことにしました。内容は次の4項目です。

- ①「森は海の恋人」から「森には魔法使いがいる」
- ②山で役立つ「ロープワーク」
- ③日本のどんぐりのお話し
- ④公園内の樹木と森の恵み

以上について短い時間ではありましたが、子ども

たちはもちろん保護者の大人たちも非常に興味津々で楽しい時間があっという間に過ぎました。外はまだ雨が降っているにも拘らず、「これから木を切りに行こう」とせがむ子どももいて、子どもたちにとっても山は掛け替えのないものであり、大切にしたいと思いました。



▲休憩所内での活動になりました



▲熱心にロープワークをされていました▼



記録者：砂原秀年(もりメイト倶楽部 Hiroshima)

## 全体

■参加人数：約500人

### <プログラム状況>

あいにくの小雨の中、午前10時、広島県緑化センター山根所長の挨拶、地元福田町老年会（福寿会）児玉会長の祝辞の後、「可部南グリーンズ緑の少年団」による「山の日」宣言で開会しました。

開会式終了後、園内2箇所で開催された森林ボランティア「ふれあい湧」の指導の下、「さくらの森」周辺で白木愛山会と三井ボランティアグループ合わせて16人が「森の手入れ」、集いの広場周辺の山林では「可部南グリーンズ緑の少年団」36人により除伐、間伐が行なわれました。また、集いの広場では地元福田町老年会44人によるオオデマリ、ドウダンツツジの苗木の植樹をおこないました。

なお、植樹終了後に予定されていた同老年会主催の協賛グランドゴルフ大会は、雨天中止されました。レストハウス前広場では「モーリースタンプラリー」、「自然の森の中でネイチャーを楽しもう」、「森のノルディックウォーク」、「紙ヒコーキ飛ばし（雨天中止）」、「ペンダント・コースターづくり」の5つの参加型プログラムを準備、多くの親子連れなどが、それぞれ楽しんでおられました。フリーマーケット（5店）と森の音楽会は、雨のため、レストハウス内での開催に変更。広島県庁合唱団の歌声と中矢喜子プロのフルート演奏に聴衆から拍手喝采、大好評でした。なお、今回の「山の日」行事は、山の日実行委員会からの助成に加え、広島市森づくり支援事業を活用させていただきました。



▲山の日宣言

記録者：行正 高成（広島県緑化センター）



▲フルート演奏



▲広島県庁合唱団

記録者：行正 高成（広島県緑化センター）

## 記念植樹

■参加人数：44人

### <プログラム状況>

小雨で植樹にはちょうど良い天候でした。事前届の44人の参加で2人ずつのペアで傘をさしたりカッパを着て、ふれあいワーク（4人）の指導でオオデマリを植えて頂きました。皆さん毎年植樹をして頂いているため、土壌改良剤を入れ、良く土に混ぜて、次に穴を掘り堆肥と肥料を土に混ぜ、少し土を入れてオオデマリの土鉢付を置き土で埋め周りの土で鉢状にして終え、引き続き役員12人で別の場所に移動してドウダンツツジを植えて記念植樹を終えた。

天候が良ければ、引き続きグランドゴルフ大会を予定しておりましたが、残念ながら今年中止にしました。皆さんレストハウスのイベント会場に移動して、食事をしたり

イベントに参加したりして楽しんで頂きました。



▲記念植樹(ドウダンツツジ)



▲記念植樹(オオデマリ)

記録者:廣瀬 健(広島県緑化センター)

## 森を生かそう！間伐・除伐

■参加人数：36人

＜プログラムの状況＞

今年も可部南グリーンズのみどりの少年団が父兄共で34人参加、開会式で元気よく「山の日」宣言を行ってくれ、集いの広場へ移動して小雨の中、森に入り、ふれあい湧の指導で木を切ったり、棚積みしたり活躍した。伐り倒すのが面白そうで、わりと大きな木を切ったり、楽しみながら作業していた。

集合写真の後、レストハウスに引き返して、昼食後ネイチャーゲームに参加したり、モーリースタンプラリーやペンダント作りに参加するなど、みんな一日を過ごしていた。



▲可部南グリーンズ緑の少年団

記録者:廣瀬 健(広島県緑化センター)

## 森の手入れ

■参加人数：16人

＜プログラムの状況＞

昨夜からの雨で参加されないのではと思っておりましたが、事前申し込みどおり白木愛山会から11人、三井ボランティアネットワークから3人参加頂き、ふれあい湧が指導に当たってくれ「さくらの森」の手入れを行いました。平素から山の手入れには慣れておられ、女性の方もテキパキ木を切ったり、処理も上手にやられ、約1時間半位の作業でした。時間が短いので物足りない様子も見受けましたが、良い汗を流して満足そうでした。参加者で集合写真を撮り、昼食後イベントにも参加頂きました。ご協力有難うございました。



▲森の手入れ(緑の少年団)



記録者: 廣瀬 健(広島県緑化センター)

## ペンダント・コースター作り

■参加人数：23人

### ＜プログラム状況＞

当日が雨天となったことから、テントの中ではコースターの作業場所が確保できず、予め材料をセットしていた「クマちゃんペンダント」作りのみを実施しました。参加者が心配されましたが、展示されたペンダント見本を見て立ち寄った来場者で満席になる時もあり、雨天にもかかわらず、終了の時刻には用意していた材料がほとんど無くなるという結果で終了しました。

当日は狭いテントの中での作業となり、湿度が高かったことから接着剤も乾き難く、指導員は大変でしたが、参加者から「可愛いのができた！ありがとう。」との言葉を頂き、苦勞が報われました。

記録者: 沼田 陽治(ふれあい湧)

## 森のネイチャーゲーム

■参加人数：30人

### ＜プログラム状況＞

あいにくの雨で、レストハウス前のテントの中、クラフトが出来るように机をセッティング。今センターで見られる生き物を探し用意した写真と一緒に楽しむゲームは諦め、テント内でクラフトを実施。一つは「みどりの集い」で小さい子供たちに楽しんで貰った「モーリー君のぬりえメダル」、もう一つは、旬の鳴きセミならぬ「鳴きガエル」を今回工夫して準備しました。

音がするものは、子供たちの関心を引くらしく、バザー等に集まっていた家族連れに人気があり、嬉しい悲鳴をあげました。寒さも雨もなんのその・・・お昼にはテントの中は、みどりの少年団で大賑わい。食べ終わると、みんなクラフトに挑戦。50個用意した材料が足りなくなり、今度は竹で用意しとくからと許してもらった始末。雨でも多くの方が楽しんでいる緑化センターでした。

記録者: 住吉和子(広島県シェアリングネイチャー協会)

## 森のノルディクウォーク

■運営：オール・オン・スポーツ

### ＜プログラムの状況＞

レストハウス前メイン会場で受付を行いました。雨模様のため、多目的広場下の「緑の相談所」内へ移動しました。最初にノルディクウォーキングの成り立ちとその効果や歩き方、ポールの使い方など基本的な事項について説明がありました。続いて、実際にポールを持っての歩き方の練習が行われました。室内で基本動作を十分練習した後、天候を見計らって「緑の相談所」周辺でウォーキング体験しました。体力づくり、スタミナアップ、減量などにとっても効果的で、上半身をしっかりと使うので、肩や首のコリの解消などにも有効とのことで、みなさん熱心に練習されていました。

記録者: 行正 高成(広島県緑化センター)

## モーリー・スタンプラリー

■参加人数：19人

### ＜プログラムの状況＞

レストハウス前(ヤマボウシ)、芝生広場(カルミア)、管理事務所横車庫上(センダン)の三カ所にモーリースタンプ台を設置しました。3カ所にはそれぞれ花が咲いていてスタンプラリーの参加者を楽しんで貰えるようにしました。生憎の小雨模様の天気でしたが、3カ所スタンプを押して戻れば、景品がもらえるということで、いろいろな人が挑戦していました。回収した回答用紙は雨で濡れ判読が困難なものもありましたが、それぞれに、楽しまれていました。記録者: 行正 高成(広島県緑化センター)

## 全体

■参加人数：1,532人

### ＜プログラム状況＞

6月2日、小雨のなか、中央森林公園センター前広場で第12回ひろしま「山の日」県民の集い三原市会場が開催されました。この日、メインの「里山の手入れ」と木の文化体験コーナーでは、「チェーンソーアート実演ショー」「木工・グラフト体験コーナー」「丸太きり大会」「森のネイチャーゲーム」「子ども体験コーナー」「エコキッズセミナーコーナー」「森のコンサート」「協賛グループの展示即売会」「ポニーと遊ぼう」など9種類のプログラムを実施しました。

当会場の特色は地元関係者をはじめ企業各社グループや緑の少年団、東広島市社会福祉協議会120人の家族連れの参加があったこと、「2013年ミスやっさ」の参加がありました。

開会式は福島実行委員長が今日は里山との対話を十分楽しんでもらいたいとのあいさつで幕を開けました。祝辞は、三原市長天満祥典さんにいただき代読を副市長 池本勝彦がされ、また農林水産局長 寶來伸夫様からも、ご祝辞をいただきました。来賓紹介は出席いただいた尾道農林事業所長・広島県自然環境課長・賀茂森林組合代表理事組合長・堀内造園代表取締役の紹介を行いました。

「山の日」宣言は北方小学校緑の少年団（2人）三原市立船木小学校緑の少年団（1人）が元気なすばらしい宣誓を行いました。



▲天満三原市長祝辞（池本副市長代読）



▲緑の少年団による山の日宣言



▲開会式への出席者



▲2013年ミスやっさ三原のPR

## 里山の手入れ

■参加人数：73人

メインの「里山の手入れ」には73人の参加がありました。参加者は5班に分れて森林ボランティアの指導で里山の手入れに取り組みました。参加者はヘルメットを付けて、下草を刈ったり、除伐を行い、運び出し粉碎機でチップ化（堆肥）した。約2時間の作業であったが、0.5ヘクタールの里山が明るいい林に再生しました。



▲山の手入れをする参加者

午後からは、森のコンサートや各種プログラムの行事に一般参加者が加わり、お祭の雰囲気が最高に盛り上がり、多くの家族連れ（1532人）で終日賑わいました。山や森の大切さを理解し行動する人の輪を拡げていくきっかけができた1日となりました

## 発電エコ体験コーナー



## 木工・クラフト体験コーナー



## 森のネイチャーゲーム



## チェーンソーアート実演ショー

参加人数：見学者多数

チェーンソーアート実演コーナーではログビルダーの西田和弘さんに鷹を製作してもらいました。



## 丸太切り競争



## 森のコンサート

ハワイアンダンス・やっさ踊りでお祭りを盛り上げました。



▲ハワイアンダンス。



▲やっさ踊り保存会

## 協賛グループの展示・即売会



▲展示販売のブース

## ポニーと遊ぼう



▼閉会式挨拶



記録者：三原市会場実行委員会

ご協賛いただき誠にありがとうございました。

協賛者（順不同）：2口 賀茂地方森林組合、1口 (株)赤石硝子建材、勝村木材(株)、アクサ生命保険(株)、山陽建設(株)しまなみ信用金庫、新宅建設(株)、尾三地方森林組合、(有)福島植物園、(株)堀内造園、三原郷心会、三原商工会議所、(株)中国銀行三原支店 (株)みどり商会 (株)アカリ工業、つぼみ、松尾内科、三原ロータリー有志、飲料水 山陽乳業(株)

全体

■参加人数：170人

＜プログラム状況＞

今年は何故かこの日だけが雨と言うコンディションの中で庄原市会場は開会しました。地元の人たちも期待していた地元板橋小学校の板橋一心太鼓は、雨の為に中止という苦渋の決断をしました。しかし、その他のプログラムは何とかできました。「山の日」とは言え、屋外のイベントは天候に左右されることを痛感しましたので、雨天対策も必要と認識を新たにしました。



▲開会式のようす



▲炭の窯だし

記録者・はやし 高正(板橋さとやま倶楽部)

## 森のコンサート

＜プログラムの状況＞

板橋小学校の板橋一心太鼓が演奏出来なくなり、広島親父バンド「モノトーンズ」も出来ないかと思っていたのですが、奇跡的に彼らの演奏が始まる

と雨は止みました。広島市内から追っかけも来られておりましたので、コンサートが成立したことで関係者一同、胸をなで下ろしました。素晴らしい演奏だっただけに、もう少しお客様に集まって欲しかったところです。



▲演奏するバンドメンバー

## ポニーに乗って遊ぼう

参加人数：12人

＜プログラム状況＞

今回は小さな子供さんが多かったのですが、ポニーが少し大きかったことから親子で乗馬を楽しまれていました。子供が餌である人参を手で食べさせてあげたり、身体を撫でておられました。地元の子供たちは普段からポニーのいるホールヒルに遊びに行っていますから、山では珍しくなかったみたいです。



▲ポニーとのふれあい

## 森のクラフト教室

■参加人数：20人

<プログラムの状況>

○講師：東登美夫（板橋さとやま友の会 会員）

予め用意していた材料を使って接着剤で簡単な置物を作ったり、ドリルで穴を開けて紐を通してペンダントを作ったりしました。また、竹を使って笛をつくることにも挑戦したり、竹馬作りに挑戦もしていましたが、案外、上手にできていました。



▲クラフトづくりを楽しむ

## 自然観察会

■参加人数：14人

<プログラムの状況>

○講師：伊藤之敏（自然観察指導員）

これまでお願いしていた西村先生が体調を崩されたので急遽、伊藤先生にお願いしました。伊藤先生も話題が豊富で、参加された人たちから、「こんな自然観察会ならまた参加したい」という声がかえりました。本当はもっと時間をかけて山の中を散策したいと先生もおっしゃっていましたが、無理のないところで良かったのではないのでしょうか。



▲植物観察を楽しむ

## 森で体験しよう

■参加人数：8人

<プログラムの状況>

炭窯から炭を出す作業をしていただきました。今回の炭は非常に上手く焼けており、灰になった率も少なく炭焼きそのものは大成功でした。初めて参加した人が殆どで、こうやって炭が焼けるのかと感心していました。



▲炭の窯出しを楽しむ

## 里山の手入れ

<プログラムの状況>

その他のプログラムである「里山の手入れ」は、参加申し込みがなく、成立しませんでした。「山の日」に、山の手入れをしないのは変じゃないかと思いますが、申し込みが全くない訳ですから、何ともしようがありません。次年度は、地元の小学校や保育所などと連携をとって見る必要もあると反省しています。

## 全体

■参加人数：70人

### <プログラム状況>

福山市会場での開催も7回目を迎えたこともあり、来場者も定着し山に対する意識も高く、次第に盛り上がりを見せています。テーマである「つながり」を全面に謳い、地元を中心として呼掛けをしたこともあり、当日の参加者は70人余りになりました。「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」をモットーとして、山や森の大切さへの理解を得て、県民の輪を広げる目的は達成出来たものと確信しています。

開会式では、福山会場関係者を代表して繁田健司様より声高らかに開会宣言をして頂きました。開会挨拶に続いて、「山の日宣言」を地元の若者を代表して松川光司様により大変力強い宣言をして頂きました。

セレモニーの最後に全員でラジオ体操を行い、今回のメイン事業である「山のグラウンドワーク」への参加に備えました。

「山のグラウンドワーク」への参加者は50名余りでした。広島県東部森林組合の方で、植樹箇所目印をして頂いたこともあり非常に助かりました。植樹(スーパーアカマツ)、里山の草刈や樹木の手入れ作業等を実施しました。参加者は程良い汗をかき充実の日ではなかったかと思えます。

最後に、当日の天候は小雨でしたが、ひろしま「山の日」県民の集いが盛会で充実した1日で終えることが出来たことは、参加者及び運営へご協力いただいた数多くの関係者の方によるもので有り大変感謝致します。

記録者:赤木 茂(実行委員会事務局長)



▲松川光司さんによる「山の日」宣言

## 山のグラウンドワーク

■参加人数：50人

### <プログラム状況>

開会式終了後は、グループ毎に別れて指導者より作業内容・注意点等の説明をしました。その後、会場近くの山林内(D遊歩道沿い)に移動して手入れの実施をしました。

今年は、「スーパーアカマツ」を植栽しました。前もって、植栽場所に目印をしていたこともあり、また指導者からの指示通りにしっかりと土の踏み込みもしており来年の成長が楽しみです。昨年植樹をした「モミジ」は立派に成長をしていました。

当日の天候は小雨でしたが、参加者との共同作業にて充実した1日でした。



▲植樹「スーパーアカマツ」



▲植樹風景。ていねいに植える

記録者:佐藤 元則(広島県東部森林組合)

## 全体

■参加人数：150人

### ＜プログラム状況＞

ひろしま「山の日」県民の集い in みよしは、三次市東酒屋町の「酒屋地区憩いの森」をメイン会場に、三次市上田町の「ほしはら山のがっこう」をサテライト会場にして開催しました。

「酒屋地区憩いの森」会場では、工夫を凝らしたイベント内容で、参加者は森林にふれあい、親しみを体感するなど意義ある一日になりました。

森の手入れでは子どもたちが指導者のサポートにより安全に注意し、初めて手にしたノコギリで木を切り倒したり、切った木や枝を運びだし、チップー機で粉砕し、そのまま山に返しました。

また、広島県シュアリングネイチャー協会により、自然や生き物の不思議さ、おもしろさを五感で体感できるネイチャーゲーム、松ぼっくりや葉っぱなどを使ったクラフトづくり、天然素材アロマを使った防虫スプレーづくりなど自然に十分親しましました。その他に馬洗川自然塾による木登り体験コーナーや、酒屋自治会連合会による恒例となった大人気のカブトムシの幼虫探し竹による弓矢や竹トンボづくりなど、森遊びを親子で楽しんでいただきました。

お昼には森林インストラクターが現地調達による山野草の天ぷらと、地元JA女性部の皆さんによる特製カレーライスが販売され、自然の恵みをいただきました。

サテライト会場の「ほしはら山のがっこう」では、自然体験と森づくりをテーマに、森林散策と森遊び、森づくりの方法についての講演の後実地体験を行いました。

記録者：三次市会場実行委員会事務局



▲会場風景



▲参加した子どもたち



▲森の手入れに参加する子どもたち



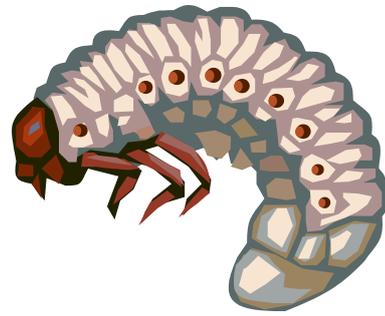
▲木の実や葉っぱでクラフトづくり



▲木登り体験



▲人気のカブトムシの幼虫さがし



▲森のネイチャーゲーム



全体

■参加人数：199人

＜プログラム状況＞

前日 式典の会場づくり班（テント張りなど）

取り付け班（「山の日」幟8本・会場案内看板7枚・山の日会場の横断幕取り付け）

公園づくり（今年で4年目）の会場前の道路沿いに植えられた植樹の草刈、朝から2人が刈払機で草刈をする作業班。使用する道具に名入れをする班、参加者に配付する物のセット作業班（「山の日」のお知らせ、会場案内図、参加賞・この会場の費用の多くは『ひろしま森づくり県民税』一人年間500円を活用のメモの挿入）

休憩時用の駄菓子、準備に追われたすきにカラスにさらわれてしまった。

参加者：サポート・トレッキング・グループ

中国木材 呉市役所

当日の天気は予報では、朝方には雨がやむ予定であったが、小雨がつづき、雨の中で開会、公園づくりの会場前の道路沿いの植え込みの刈り草の撤去作業を式典前にスタッフ6人で済ませたので、側溝沿いの臯月が、大変きれいになった。

参加者は一般、地元の郷原の住民、バフコック日立エコークラブ、中国木材（株）、もみじ銀行などの参加をいただきました。今年の植樹で公園づくりの仕上げの年、バス・車で現地へ移動。



▲開会式の様子

○「山の日」の参加申し込み者、一人も欠けることなく全員が参加いただき感銘。

○中国木材（株）堀川保幸社長には、呉会場実行委員長とし

て大任を果たされ上に、小雨の中ご多忙な身上にもかかわらず最後の植樹まで、ご一緒頂いたことに心から感謝を申し上げます。

記録者：宮岡 泰久（呉市会場運営委員長、サポート・トレッキング・グループ会長）

## 公園づくり

＜プログラムの状況＞

公園づくり4年目。ヒベリカム・ヒデコート420本を中央・芝生を囲み植えた。これまで外周を臯月、その内側にマンサクとサクラ、芝生の中に3mの桜（12本）の植樹を昨年まで植え、今年はヒベリカム・ヒデコートの植樹。

専門家の説明を現地で聞いて、土盛りされ土地もやわらかく植えやすく簡単。苗をビニールの鉢から取り出して植えた。手間はあまりかからず、終わった方から昨年と一昨年に植えた芝生に生えた草をみんなで草抜き作業。

昨年まで広場にたくさんの草が生えていましたが、今年は事前に草刈済みのため予定より早く進み、小雨も降っていたので終了を告げて、泥で汚れた手足・道具類を業者が準備したタンクからの水で清掃して、駐車場まで歩いて移動散会。4年目で植物や展望は公園らしくなりましたが、トイレ・水道・ベンチがないことがさびしい。



▲ヒベリカム・ヒデコートを植える

記録者：宮岡泰久（サポート・トレッキング・グループ）

## 檜の丸太切り

小雨の中でも元気よく鋸を引き、檜の皮を剥ぐとツルツルで光沢があり、檜の心地よい香りに引き込まれ、一人で何回も輪切り、来年も丸太切りがある？と子供たちの質問もあり好評でした。

残念なことは、雨のため檜が濡れているため電気コテがすぐに焼きごてにならず、輪切りに焼印が押せなかったことが惜しかった。(ここグリーンヒル郷原では、火を焚くことが呉市の条例で禁止されているため、焼きごて使えず)小雨の中にかかわらず早退する人もなく、スタッフの方が驚きました。

帰宅後、輪切りにした檜を風呂に入れて早速「檜の木風呂」を楽しんだという人もありました。

サポート・トレッキング・グループの会員4人が指導式典の背後の森で実施



▲檜の丸太を切る

記録者:宮岡泰久(サポート・トレッキング・グループ)

## 森のネイチャーゲーム

■参加人数: 41人

<プログラム状況>

玉切りと参加者を2つに分けて行いました。参加者は1回目19人(内大人8)、2回目22人(内大人12)の計41人で、指導者は3人でした。

最初に「危ない生きもの」「いたい植物」「おぼえてほしい植物」を説明して、始めました。

森の中には、おもしろいもの、すてきなものが多

くあることを知ってもらおうと言うことで、道のわきに目立たないように置かれた人工物を注意深く探すアクティビティの「カモフラージュ」で観察力や注意力を高めて、自然の宝物をさがす「フィールドビンゴ」をしました。カラスの声は聞こえませんが、ウグイスなどのさえずり、雨の音も耳をすませました。ウノハナ、ソコゴ、コガクウツギ、コックバネウツギと白い花が雨の中しっとりと咲いていました。小雨で生き生きした森を家族で楽しむことができました。なお、主催者でビニールカップを用意していただいていたので、参加者は最後までアクティビティに集中できたのではないかと思います。



▲森のネイチャーゲーム(カモフラージュ)



▲森のネイチャーゲーム(フィールド・ビンゴ)

記録者:新庄 隆道(広島県ネイチャーシェアリング協会)

全体

■参加人数：約230人

＜プログラム状況＞

第12回ひろしま「山の日」県民の集い八幡高原会場は、日本山岳会広島支部、広島県山岳連盟、NPO法人西中国山地自然史研究会が企画・協力し、二日間で4つのプログラムを準備しました。

いつも訪れる場所をきれいにしたり、これからも安全に利用できるように手入れをするということ、さらにフィールドの保全やそこでの活動の啓発という様々な目的をもって実施しました。

一日目は参加者全員で開会式を行いました。地元北広島町で、自然ガイドとして活躍が期待される女性が緊張の面持ちながら、しっかりと「山の日宣言」をしてくださいました。また、各部署から作業前の注意事項もしっかりと行なわれました。作業の中でも交流が生まれ、連帯感を持って作業を進めました。心配されていた雨にもほとんどあわず、作業後の達成感あふれた気持ちを持って閉会式となりました。

二日目は、初企画の初心者のための登山教室が行なわれました。町内からの参加者が多く、初めての方からベテランまで、山登りの専門家からしっかり指導を受け、笑顔で下山してきました。呼吸法や足の運び方など、細かなテクニックを教えていただいたということで、とても好評でした。また、山の恵みである木材を使った啓発活動もカキツバタ祭りの中で実施され、一般の方にも「山の日」を知っていただけたように思います。この日をきっかけに、八幡高原の山や自然に愛着を持っていただければと感じました。



▲山の日、開会式



▲プログラム開始前のストレッチ

報告：河野弥生（西中国山地自然史研究会）

## 湿原整備

■参加人数：40人

＜プログラム状況＞

昨年に引き続き、西中国山地自然史研究会と日本山岳会広島支部が企画し、霧ヶ谷湿原の整備を実施しました。霧ヶ谷湿原は、広島県の自然再生事業により2009年に工事が完了した場所です。その後は導水路での水の管理で、自然な状態での維持管理を保ってきました。しかし、水が行き渡らず森林化している箇所もあり、専門家のアドバイスも受け、低木の伐採を行い整備をすることとしました。

開会式では作業前の安全に関する注意事項もしっかりと聞きました。その後、機械班は現地に直行し、作業手順を打ち合せを行い、作業を開始しました。手作業班は高原の自然館学芸員による自然再生事業の趣旨・目的の説明を受けながら湿原の観察コースを歩き、現地に徒歩で移動しました。役割分担もスムーズで、草を刈る人、運ぶ人、運搬する人と分かれ、それぞれに汗を流しました。

今回の作業により、中央部分にあるやぶに覆われた湿地も見えるようになり、参加者は整備の手応えを感じていました。作業後は、参加者全員で内容の振り返りも行ない、次回も安全に継続して取り組んでいけるよう、心が一つとなりました。



▲木や草を運び出す

記録者：記録者：斎陽（公益社団法人日本山岳会広島支部）

## 霧ヶ谷湿原～猿木峠登山道整備 （広島県山岳連盟）

■参加人数：19人

＜プログラムの状況＞

6月1日(土)北広島町八幡会場では、広島県山岳連盟は猿木峠～掛頭山～土草峠の登山道整備、JAC広島支部は霧ヶ谷湿原の再生作業を行いました。前日、JAC&山岳連盟のスタッフと地元高原の自然館の河野さんでゼッケン等を準備。6月1日(土)、9時から受付開始後、かりお茶屋前で山岳連盟・日本山岳会広島支部合同で開会式。現地主催者のNPO法人西中国山地自然史研究会近藤会長の挨拶後、山田岳連理事長・兼森JAC広島支部長の挨拶、注意事項の後「山の日」宣言があり、それぞれに分かれて現地に移動しました。

山岳連盟が担当した登山道整備は下見で倒木や笹の繁茂具合を確認していたので、チェーンソー2台と草刈り機4台でA・B2班に分かれて両方から作業を開始した。A班10人は猿木峠からチェーンソー1台で倒木を処理し、草刈り機2台で登山道の笹などを刈り、片付けメンバーが鎌や鋸を持参して登山道整理に当たって午前中に車道まで貫通した。B班の9人は土草峠からも順調に進み、A・B班とも掛頭山山頂のリフト下り場で昼食を食べながら午後の作業ミーティングを行いました。

午後からお互いが掛頭の山頂に向かって作業を開

始。心配された天気もほとんど作業終了近くまで持って土草峠まで綺麗に整備出来ました。新緑の爽やかな木漏れ日の中、登山道整備で心地よく汗を流し、整備された登山道を歩く爽快な気分は一人では味わえない連帯感があるので、今後も継続したいと思います。皆さんご協力ありがとうございました。



▲登山道の草刈り作業



▲作業後の登山道

記録者：福永やす子（一般社団法人広島県山岳連盟）



## 初心者のための登山教室

■参加人数：21人

### ＜プログラムの状況＞

当日は前日からの雨が残り、教室参加者が少ないのではと危惧したが、12歳の女子中学生から72歳の男性まで初心者を含め一般参加は17人を数え、講師3人とアドバイザー1人の合計21人で実施しました。

山麓庵前で開会式後、聖湖畔の高岳登山口へ車で移動して、ストレッチを行って登山開始。この頃には雨も小降りになって、21人全員が元気よく出発。途中、足場が悪いことを考慮してワンポイントレッスン「山での歩き方」を説明し、安全で楽な登山道の歩き方を勉強しました。頂上へはほぼ予定どおりに到着し、雨は上がっていましたが、ガスがかかっていつもの絶景が望めず残念でした。全員が頂上で昼食を取って記念撮影後、足場の悪い下山時の対策としてストックの使い方を説明しました。この効果もあって滑りやすい坂道を無事に怪我なく下山することが出来ました。下山後、ストレッチ・挨拶後解散しました。参加者からは「楽しく登れた」「レッスンが参考になった」との感想がありました。



▲ゆっくり歩く

記録者：近藤道明（公益社団法人日本山岳会広島支部）

## カキツバタ祭り会場でのPR

■参加人数：150人

### ＜プログラムの状況＞

朝から降るあいにくの雨で開催が危ぶまれましたが、晴れ間に期待し、会場設営を行ないました。この日は八幡高原で大切に育てられているカキツバタを鑑賞するお祭りが行われます。町内外からたくさんの方が来られます。その一角をお借りし、山の日のPRを兼ね、薪ストーブの販売・薪割り体験・芸北せどやま再生事業の広報・せどやまクイズを実施しました。薪割りは体験できるとあって、小学生から大人まで実際に斧を持って、大きな丸太に挑みます。また、せどやまクイズでは、12種類の木を準備し、その木の種類を当ててもらいます。50人ほどがチャレンジし、全問正解者は1人でした。これらの取り組みによって、少しでも山の資源を身近に感じてもらえたら嬉しく思います。



▲せどやまクイズコーナー



▲薪割り体験を楽しむ

記録者：上田耕史

全体

■参加人数：200人

<プログラム状況>

小雨の中、尾道ふれあいの里で開催しました。開会式では、小学校の男女児童による力強い「山の日宣言」が行われた後、プログラムごとに集合しイベントを実施しました。

午前中は、「山の手入れ」、「樹木の手入れ」、「自然とふれあうハイキングと森の中のネイチャーゲーム」の3つのプログラムを実施し、多くの家族連れなどで楽しく自然について学び・遊んで過ごしました。昼食は、地元御調のがんぼう米を使用したおにぎりと、地元で獲れた魚を使用してフライなどにしたお弁当をいただきました。山と海のつながりを味覚で感じていただけたと思います。

午後からは、「クラフト教室」を実施し、参加された方それぞれが個性豊かな作品をつくりあげていました。

一日を通じて、豊かな自然に触れ森の恵みを感じることができました



▲山の日宣言をする地元の小学生



▲会場の様子、家族での参加が多かった

記録者：実行委員会 事務局

## 山の手入れ

■参加人数：23人

<プログラム状況>

開会式終了後、山の手入れ予定地に集合し、点呼の後作業内容を説明。森林組合が下刈りした箇所、除伐・間伐を行い、棚積みを行う作業を実施しました。当日は小雨の中作業でしたが、子どもたちは雨にもかかわらず親子で楽しそうに作業していましたが、特に印象に残りました。おかげでキャンプ場周辺が明るくなり、より利用しやすい環境となったと思います。



▲ノコギリで木を切る参加者



▲より利用しやすい環境になりました

記録者：金野頼子〈尾三地方森林組合〉

## 樹木の手入れ

■参加人数：23人

### ＜プログラムの状況＞

昨年に続いて2回目の「山の日」県民の集いの講師として参加し、樹木の手入れについて約1時間30分説明をしました。

当日は朝から雨が降っていたのですが、講義を始めるころには小雨が降ったり止んだり傘もあまり必要のない状況で話を進めることが出来ました。

講義の内容は現地に植栽されたサクラや、自然に生えているマツ等を観察しながら、病害虫の説明や管理の方法について説明しました。特に、枝を切る位置については、サクラを見ながら説明し、実際に何名かの人に切ってもらいました。体験された方からは、正しい切り方が分かってよかったと言われました。参加された方からは、病害虫の防除方法や管理についての多くの質問がでて大変関心を持って話を聞いてもらいました。

今回の説明が樹木を守っていく上で、少しでも参考になればと思い説明を終了しました。



▲枝の切り方について



▲サクラを見ながら説明

記録者：村上幸弘（樹木医）

## 自然とふれあうハイキングと森の中のネイチャーゲーム

■参加人数：102人

### ＜プログラムの状況＞

（一社）尾道青年会議所と広島県シェアリングネイチャー協会との共同でふれあいの里ハイキングコースを使い、ハイキングを行いました。本事業では子供たちを対象として、ネイチャーゲームやカブトムシの幼虫探索などのイベントを織り込んだ内容に致しました。

子供たちを対象とさせていただきましたが、子供だけでなく大人の方々も一緒になって楽しんでいただく姿が印象的でした。また、持ち帰ったカブトムシの幼虫は各自の小学校や幼稚園に持っていき、皆で育てていると伺っております。この度の事業が参加頂いた方々にとって山に入り、自然と触れ合うきっかけになっていただけたなら幸いに思います。



▲カブトムシの幼虫を探す



▲傘をさしてネイチャーゲームを楽しむ

記録者：安楽城大作（一般社団法人尾道青年会議所）

## 栃木で「山の日」交流

「ふるさと高原山を愛する集い」に参加して。

私は演歌大好き人間です。北島三郎、鳥羽一郎とくれば、たまりません。「山の日」の全国の動きを調査研究している市川貴大さん（とちぎ農林倶楽部部長）との情報交流が縁となり、かねてから山の日制定を呼びかけておられる船村徹さん（作曲家）のふるさとである栃木県塩谷町へ、高ぶる気持ちを押しさえながら出かけました。

5月26日（日）の午後のこと、旧・塩谷高校体育館を会場に「ふるさと高原山を愛する集い」が開催されたのです。先生の里帰りということもあってか、300人の予想をはるかに上回る600人を超える参加者となりました。「ふるさとの山を語る」と題して船村徹さんは、栃木県には「ふるさとの山」の高原山があり、子供の頃に遊んだことや母親に叱られた思い出がよみがえることをご披露されました。海、山、川はそれぞれ女房、親父、子供の関係であり、山がしっかりしていれば、海が豊かになり、この川は田園全体を潤し、日本列島が健全になるので、みんなといっしょに山の日制定に向けて取組みたいとユーモアを交えながら述べられました。ふるさとの山を想う気持ち、そして時々演歌の裏話も交えながら、味わいのある話の内容、話しのリズム、話しぶり、ユーモアのセンスなど・・・とてもとても素晴らしく心に響いてきました。ふるさとの塩谷だからこそ聞くことが出来た内容だったと思います。

私も少し時間をいただき、600人の参加者を前に、ひろしま「山の日」県民の集いの、民を主体にした取り組みを紹介させていただきました。そのあと、地元の方、中学生や高校生たちは、ふるさと高原山への想いを、思い思いの言葉や絵で伝えてくれました。歌、言葉、詩、絵、写真・・・伝えたいメッセージをよりわかりやすく伝えるのは、本気であることと取組む人の気持ちがとても大事だと、感じたことでした。

記録 畝崎辰登（ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会 事務局）

## ふるさと高原山を愛する集い

ふるさとを思い、高原山麓で保全活動をみんなで考えよう

主旨 山と川と海は、人が利用するにあたって適切な保全管理があってこそ、はじめて良好な環境が得られるといわれています。“高原山”は塩谷町の基本構想にシンボルとうたわれているように、住民にとって心のささえであるとともに、水やおいしい空気、大地の恵みなどを供給しています。私たちには“高原山”の素晴らしい自然を次世代に継承していく責務があります。本日は、私たちのふるさと“高原山”への思いを共有し、“山の日”について一緒に考えてみましょう。

日時 平成25年5月26日（日）

場所 日々輝学園体験学習会（旧塩谷高等学校）

体育館：栃木県塩谷町大宮2579-1

主催 ふるさと高原山を愛する集い実行委員会、塩屋町



会場には、予想をはるかに超える600人が詰めかけた。



ふるさとの山への想や山の日制定を語る、船村徹さん

## 実行委員会（全体）

### ■アドバイザー

森本 竹一 元・吉和村村長  
 中越 信和 広島大学大学院 国際協力研究科 教授  
 奥迫 輝昭 広島県農林水産局 森林保全課 課長  
 菅原 基晴 広島県環境県民局 自然環境課 課長  
 吉野 栄作 (公社)広島県みどり推進機構 事務局長  
 岡谷 義則 中国新聞社 代表取締役社長  
 青木 暢之 (株)中国放送 代表取締役社長

### ■実行委員長

伊藤 利彦 愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 幹事 元・広島市収入役

### ■副委員長

内海 康仁 光和物産(株) 代表取締役社長  
 京才 昭 (一社)広島県山岳連盟 会長  
 瀬川千代子 ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表  
 前垣 壽男 西条・山と水の環境機構 理事長  
 箕田 英紀 三次市酒屋地区自治連合会会長  
 杳谷 正樹 (株)純正食品マルシマ 代表取締役社長  
 福島 偉人 (株)有斐園 会長  
 堀川 保幸 中国木材(株) 代表取締役社長  
 八谷 文策 (特非)森のバイオマス研究会 監事

### ■委員

赤木 茂 光和物産(株) 取締役総務部長  
 秋山 浩三 広島県シェアリングネイチャー協会 事務局長  
 齋 陽 (公社)日本山岳会広島支部 自然環境委員会副委員長

井上 年光 阿品の森サポータークラブ 会長  
 奥川 利裕 三次市産業部農政課 課長  
 鎌田 博 広島市森林公園

近藤 紘史 (第一ビルサービス森林公園 園長)  
 櫻井 充弘 (特非)西中国山地自然史研究会 代表  
 清水 勝 (一財)もみのき森林公園協会理事長  
 仙田 信吾 安芸高田市産業振興部 部長  
 竹田 幸雄 (株)中国放送 常務取締役テレビ営業局長  
 谷村 恭佐 (公財)オイスカ広島県支部 事務局長  
 野島 信隆 (一財)中央森林公園協会 事務局長  
 (公財)法人日本山岳会広島支部自然環境委員会副委員長

野本 利夫 (特非)ゆあーず「食」未来研究所 理事長  
 林 高正 (特非)板橋さとやま倶楽部 理事長  
 林 尚哉 中国木材株式会社 総務課 課長  
 野本 利夫 (特非)ゆあーず「食」未来研究所 理事長

広島県森林インストラクター連絡協議会  
 平野 公穂 中国新聞社営業事業本部事業出版センター  
 福永やす子 (一社)広島県山岳連盟 普及部 副部長  
 船本 昌義 西条・山と水の環境機構 事務局  
 正本 良忠 広島県緑化センター 相談役  
 宮岡 泰久 サポート・トレッキング・グループ 会長  
 山田 雅昭 (一社)広島県山岳連盟 副会長・理事長

### ■監事

梅田 斉 (一財)もみのき森林公園協会 事務局長

### ■事務局(副委員長兼任)

瀬川千代子 ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表

### ■事務局(委員兼任)

企画調整 兼森志郎 (公社)日本山岳会広島支部 支部長  
 企画調整 畝崎辰登 西条・山と水の環境機構 事務局

### ○連絡事務局

〒730-0041 広島市中区小町 2-28-703  
 株式会社パブリックス内

## 各会場実行委員会

### □安芸高田市会場実行委員会

#### ■実行委員長

湧永 寛仁 湧永薬品株式会社 代表取締役

#### ■副委員長

田村 和義 安芸北森林組合 代表理事組合長

#### ■事務局長

清水 勝 安芸高田市産業振興部 部長

### □東広島市会場実行委員会

#### ■実行委員長

前垣 壽男 西条・山と水の環境機構 理事長

#### ■副委員長

石井英太郎 西条・山と水の環境機構 理事

#### ■運営委員長

島 靖英 西条・山と水の環境機構 理事

#### ■事務局長

船本昌義 西条・山と水の環境機構 事務局

### □廿日市市会場実行委員会

#### ■実行委員長

櫻井 充弘 (一財)もみのき森林公園協会 理事長

#### ■副委員長

井上 年光 阿品の森サポータークラブ 会長

#### ■運営委員長

大西 弘 広島県森林インストラクター連絡協議会

#### ■事務局長

梅田 斉 (一財)もみのき森林公園協会 事務局長

### □広島市（広島市森林公園）会場実行委員会

#### ■実行委員長

鎌田 博 広島市森林公園(第一ビルサービス森林公園 園長)

#### ■副委員長

富士澤 隆 広島市森林公園

#### ■運営委員長

見勢井 誠 もりメイト倶楽部 Hiroshima 会長

#### ■運営副委員長

桑原 清二 フォレストクラブ森守会長

#### ■事務局長

桑田 莊一郎 広島市森林公園

### □広島市（広島県緑化センター）会場実行委員会

#### ■実行委員長

正本 良忠 広島県緑化センター 管理責任者

#### ■副委員長

山根 道廣 広島県緑化センター

#### ■運営委員長

廣瀬 健 広島県グリーンサポート連絡会 会長

#### ■事務局長

山根 道廣 広島県緑化センター

### □三原市会場実行委員会

#### ■実行委員長

福島 偉人 株式会社有斐園 会長

#### ■副委員長

川口 洋海 三原市経済部 部長

#### ■運営委員長

榊宗 正則 (特非)森のお猿さん

#### ■事務局長

谷村 恭佐 (一財)中央森林公園協会 事務局長

□庄原市会場実行委員会

- 実行委員長  
八谷 文策 (特非)森のバイオマス研究会 監事
- 副委員長  
林 高正 (特非)板橋さとやま倶楽部理事長
- 運営委員長  
小笠原 六紘 (特非)板橋さとやま倶楽部
- 事務局長  
表 康信 (特非)板橋さとやま倶楽部

□福山市会場実行委員会

- 実行委員長  
内海 康仁 光和物産(株) 取締役社長
- 副委員長  
山内 充人 福山山岳会 会長
- 運営委員長  
繁田 健司 光和物産株式会社
- 事務局長  
赤木 茂 光和物産(株) 取締役総務部長

□三次市会場実行委員会

- 実行委員長  
箕田 英紀 三次市酒屋地区自治連合会会長
- 事務局長  
奥川 利裕 三次市農政課 課長

□呉市会場実行委員会

- 実行委員長  
堀川 保幸 中国木材(株) 代表取締役社長
- 副委員長  
佐藤 一教 バブコック日立・エコークラブグリーン委員会理事
- 運営委員長  
宮岡 泰久 サポート・トレッキング・グループ 会長
- 事務局長  
林 尚哉 中国木材株式会社 総務課長

□北広島町八幡高原会場実行委員会

- 実行委員長  
近藤 紘史 (特非)西中国山地自然史研究会 会長
- 事務局長  
河野 弥生 (特非)西中国山地自然史研究会

□尾道市会場実行委員会

- 実行委員長  
柰谷 正樹 株式会社純正食品マルシマ 代表取締役社長
- 副委員長  
小川 健太郎 尾三地方森林組合 代表理事組合長
- 事務局長  
朝倉 智佳史 尾道市産業部農林水産課 課長

※以上、2013年6月2日時点での委員及び所属等を記載しております。

また、今年もたくさんの方々に協力していただき行事を行なうことができました。心より感謝申し上げます。

---

第12回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

- 発行日 2013年11月30日
- 発行・編集 ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
- 事務局 〒730-0041 広島市中区小町2-28-703  
TEL082-909-7662 FAX082-248-3586  
e-mail:info@yamanohi.com



- 山の日ロゴ: 山と人との調和をモチーフにデザイン開発。  
基本カラーはエコグリーン。  
デザインは木原実行さん。



この行事は、「ひろしまの森づくり県民税」を活用して開催しています。

ひろしまの森づくりキャラクター  
モーリー

